



## イスラエル・米国：ネタニヤフ首相の議会演説

3月3日午前、イスラエルのネタニヤフ首相は、米国の上下両院合同会議でイランの核問題に関する演説を行なった。ネタニヤフ首相の議会演説は、下院のジョン・ベイナー議長がホワイトハウスと調整することなく要請したため、ホワイトハウスは慣例に反すると反発した。また3月17日に行なわれるイスラエル国会選挙の直前であることもあり、オバマ大統領、バイデン副大統領、ケリー国務長官はネタニヤフ首相と会談しなかった。イスラエルと米国の双方で、演説に関する賛否両論が巻き起こり、2月24日には、ライス大統領補佐官が、テレビ番組の中で、イスラエル・米国関係は超党派で維持されてきたが、今回の議会演説は党派的な動きであり、両国関係に悪影響を与えると警告していた。しかしネタニヤフ首相は、内外の慎重論に対応せず、3月2日にユダヤロビーであるAIPACの会合で講演した後、3日の議会演説に臨んだ。報道では、数十人の民主党議員が議会演説をボイコットした。

ネタニヤフ首相は演説で、イランに対する不信感・警戒感をあらわにし、現在の核交渉での要求は不十分であり、イランの核武装を阻止できないとする従来の主張を繰り返した。ネタニヤフ首相は、現存する核施設の破壊やイランが持つ核処理能力の根絶を求めた。同首相は、現在の交渉から得られる「悪い合意」に代わるものはイランとの戦争ではなく、「より良い合意」と抽象論を主張した。首相の演説後、オバマ大統領は、講演内容に新味はなく、具体的な代替案がないとコメントした。

### 評価

ネタニヤフ首相の演説内容は、従来から主張してきたイランに対する不信感・警戒感を表明したものだ。また、同首相は、現行の交渉に対する不満を表明したが、具体的な代替案の提示はなく、レトリック的な発言に終始した。ライス大統領補佐官は、3月2日のAIPAC会合での講演で、交渉の最中にある問題について達成可能でない提案を持ち出すべきではないと主張していたが、ネタニヤフ首相はまさに実現性のない諸要求を持ち出した。3日のニューヨーク・タイムズ紙社説は、演説には中身も新たな提案もないとし、安全保障問題に関するタフさを示すイスラエルの有権者向けのパフォーマンスであることは明確だと論評した。イスラエルでは、右派は演説を称賛し、中道・左派は演説を酷評している。

ネタニヤフ首相が、イランに対する極めて厳しい内容の演説をすることは事前から予想されていた。問題視されたのは、そのやり方とタイミングである。慣例を無視してホワイトハウス抜きで首相の訪米が決められ、演説はイスラエルの選挙直前に行なわれた。ネタニヤフ首相は、イスラエルと米国関係は堅固であり、オバマ大統領が大きな貢献をしたと形式的な称賛をしつつ、オバマ政権の対イラン政策にまっこうから反対する立場を議会で表明した。そのため今後の新たな焦点は、オバマ大統領とネタニヤフ首相の関係及び米国・イスラエル関係にどのよう

な影響が出るかである。米国政府首脳は、すでに両国関係に悪影響が出るだろうと懸念を表明している。労働党のヘルツォグ党首は、今回のネタニヤフ演説が、米国の対イラン政策を変えることはないが、米国・イスラエル関係を悪化させ、イスラエルを孤立化させるとし、その代償を我々がはらうことになることになるとコメントしている。

3月17日の国会選挙についての世論調査では、まだ誰が勝者になりそうかは見えない。今回の議会演説が有権者に与えた影響についてのデータはまだ出ておらず、ネタニヤフ首相が、再度、首相に就任する可能性もある。その場合、ネタニヤフ首相とオバマ大統領との関係はこれまでになく緊張するであろうし、両者の対立関係がイスラエル・米国関係に悪影響を与えることが懸念される。イスラエル国会の次回選挙は、中東和平交渉の今後だけでなく、イスラエル・米国関係の将来にも大きな影響を与えるだろう。

(中島主席研究員)

---

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧ください。URL : <http://www.meij.or.jp/>